



街

歴史・暮らし

都市の成長は
未来へと続いている

城下町として知られる小田原市は、江戸時代には東海道屈指の宿場町として発展し、人・もの・文化が行き交う中で、数々の伝統・技術の基礎が形成されてきました。その後も時代の変遷を経て、発展を続けてきました。恵まれた自然環境や交通の利便性などを生かし、今も多くの企業が集積し、県西の中心都市としての役割を担っています。資源を活用した持続可能なまちづくりがここにあります。



水

海・川

水、それは
全ての営みをうるおす

酒匂川と相模湾を有する小田原市。富士山や丹沢山地を源流に持つ酒匂川は、深い森で滋養された栄養豊富な水を相模湾へ注ぎ、多種多様な魚介の息を支えています。こうした水環境のもと、水産業や魚食文化など、小田原を語るうえで外せない生業や文化が醸成されてきました。豊富な水資源を要する事業・研究活動の拠点としても注目され、水辺でのイベントやアクティビティを通じた地域活性化も期待されています。



森

山・里

木を育て木をつかう
「木づかい」のまち

箱根外輪山や曾我丘陵の広がる市域。豊かな木々は、清涼な空気、温暖な気候、災害防止など様々な恩恵をもたらすと同時に、人びとに癒やしやリフレッシュできる空間を与えています。また市内では、長年にわたって林業や木材産業が培われてきました。原木の生産から木材の流通・加工を市内で行っており、木製品の使用も盛んです。名実ともに「木づかい」のまちとして、その歴史と技術を生かした取り組みが進められています。



食

農・加工品

「食」の豊かさこそ
小田原の魅力

豊かな自然の恵みや、城下町、宿場町として栄えた歴史の中で、小田原の食文化は形成されてきました。米・野菜・果樹・魚介等、色とりどりの食材が育まれるとともに、蒲鉾、干物、梅干など、全国的に名を知られた歴史ある加工品が数多く存在しています。魚介類や柑橘類、練り物を生かした新商品・新メニューの開発も行われ、ご当地グルメとして人気を呼んでいます。新旧の魅力を生かした食のブランド化が進んでいます。

可能性に満ちたオールインワンなまち

長い歴史と伝統・文化、海・川・山の恩恵。まちの

宝を守り育む人の力が、小田原の未来をつくる。